

第5学年1組 道徳科学習指導案

日 時 令和元年11月28日（木）第5校時
場 所 人吉市立東間小学校 第5学年1組教室
指導者 教諭 沢田 美穂

- 1 主 題 名 親切・思いやり「相手の立場に立って親切に」
- 2 教材名 くずれ落ちたダンボール箱（東京書籍 新しい道徳⑤）P118～122
- 3 主題設定の理由

（1）主題について

本主題は、小学校学習指導要領B「主として人との関わりに関すること」の（7）親切・思いやり「誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすること。」を受けて設定されたものである。内容項目の概要には「自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしては、望ましい人間関係を構築することはできない。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。」と記されている。つまり、相手の立場や気持ちを想像したうえで、よい励ましや援助を行うことのできる、人間としての生き方が期待されているのである。

高学年のこの時期は、相手のおかれている状況や立場を考えることができるようになる児童が増え、推理的思考もできるようになる。また、価値観も育ち、自分だけで意思決定ができるようになってくる。しかしながら、自分のおかれた状況が不利になったり、自分を非難されたりした時に心の中に葛藤が生まれ、行動に移すことに、迷いが生じたりする。

そこで、どんな状況下でも、相手の立場に自分を置き換え、他者に積極的に関わることができるような態度を育てていくことの大切さを考えることができるものである。

（2）児童の実態について（アンケート実施人数31人）

	はい	いいえ	わからない
1 親切はよい行為だと思う。	31人	0人	0人
2 どんな行為が親切だと思うか。 困っている人を助ける、何かをしてあげる、優しくする、助け合う・支え合う、（分からない、困っているときなど）何かを教えてあげる、人の手伝いをする、落ち込んでいる人を慰める、席を譲る、困っていることを解決してあげる、誰かを敬うなど			
3 誰かに親切な行為をしたことがある。	30人	1人	0人
だれに 友達、家族、高齢者、親戚、知らない人			
どんなこと 勉強を教えた、荷物を持ってあげた、道を教えてあげた、具合が悪い友達のお世話をした、物を貸してあげた、泣いていることを励ました、肩たたき、ご飯の用意、家族が病気の時に手伝いをしたなど			
4 自分が知らない人へも親切にできる。	15人	8人	8人
【はい】困っている（苦しそうな）姿を見ていられない、自分が困っているときに親切にされうれしいから、助けを求めているから、知らない人でも思いやりの心をもって接したい、相手も同じだと思うので、いい気持ちになるから、いいことがあるかもしれないなど 【いいえ・分からない】声をかける勇気がない、不安、自信がない、どんな人かわからない（怖い人、悪い人など）、一人だと言えない、言葉が見つからないなど			

5 親切をしたらどんな気持ちになる。

うれしい、気持ちいい、またしたくなる、良かった、やりがいを感じる、心が温かくなる

本学級の児童は男子19人、女子12人、計31人である。まだ、幼さが残り、自己欲求が強い児童も多い。しかしながら、高学年としての生活を通して少しずつ協調性や責任感などが高まり、友達とも協力して活動する姿が見られるようになってきた。実態調査では、親切の行為の在り方については様々な捉え方が見られたが、相手を思いやる行為であるということは誰もが感じており、その親切の行為は、価値あるものだと感じている児童がほとんどであった。しかし、自分の知らない人へ親切にする行為については迷いが生じる児童も見られ、どのような場面でもすべての人に親切にできるところまでは至っていない。そんな児童が本教材を通して、自分の価値観を見直しながら、親切という行為について追求することで、自己の生き方や考え方を深めていくことができると考える。

(3) 指導にあたっては、次の点に留意する。

「共に考え、響き合う藍田っ子の育成Ⅱ」

～「藍田っ子学習四か条」における「響き藍」を核にした教師の意識改革と具体的な支援の在り方～

【本学習で育てたい児童の姿】

相手の気持ちや立場を自分のことに置き換え、推し量って想像し、どのような状況下においても、親切の価値を理解したうえで、よりよい励ましや援助を行っていくことのできる態度を育てていきたい。

<視点1>考え藍の工夫

- 導入時の1枚の絵から親切、思いやりの価値を学習していくことに気づかせ、親切の行為について自分なりの考えをもてるようにする。
- 自分の考えがうまく伝えられなかったり、考えをもてなかったりする児童には、話し合いの時間を効果的に設定して、友達考えから自分の考えを生み出す手立てとさせる。

<視点2>伝え藍の工夫

- 自分の考えを伝える時には理由や根拠をもたせ、聞く時も相手の考えのもとになっているものが何であるのかを考えさせる。
- 役割演技を通して、自分の考えを表出するだけでなく、役割演技をする友達の考えや気持ちについて考えさせる。

<視点3>響き藍の工夫

- 親切という行為は、「善の行為であり、自分や相手、そして社会にとってもよりよい行為であるが、そこに、誤解によって不利益などが生じた時の親切という行為はどうあるべきなのか。」ということに焦点化し、真の価値を追求した話し合いをさせる。
- 親切は価値ある行動であると分かっているが、「それでも・・・」という、人間の弱さや本音の部分を出し合えるように「心のメーター」を活用する。

<視点4>生かし藍の工夫

- 本時の学習をもとに、これまでの自分の姿をふり振り返り、これからどのように生活していきたいかを考えさせる。

4 本時の学習

(1) 目標 いろいろな状況の中でも、相手の立場に立って考えることが大切であることに気づき、親切にしようとする態度を育てる。

(2) 展開

時間	学習活動	児童の思考の流れ
3	1 親切に関する一枚の絵から自分の考えを発表する。	○ レジ袋を拾って、お母さんに渡してあげます。 ○ 拾ってあげたいけど、勇気がでないかも。
17	2 本文を読む。 ・ くずれ落ちた段ボール箱を片付けるわたしたちの気持ちを考える。 ・ 店員に注意を受けるわたしたちの気持ちを考える。 ・ おばあさんのお礼に答えるわたしの気持ちを考える。(役割演技)	○ おばあちゃんが困っているから、助けてあげたい。 ○ おばあちゃん喜んでくれるかな。 ○ お孫さん、無事に見つかったかな。 ○ すごくいい気持ちだな。 ○ わたしたちがやっていることが少しでも役に立てばいいな。 ○ 何でわたしたちが注意を受けるの。訳も知らないのに。 ○ しなкゃよかったな。 ○ 何だかいい気分が台無しだな。 ○ おばあちゃんが来て、訳をいってくれたらいいのにな。 ○ わたしたち、注意されたんですよ・・・。 ○ もう、いいですから・・・。
20	3 誰かに親切にするときにはどんな心を大切にすればよいのか考える。 ・ 「相手を思う気持ち」と「親切が理解されないとき」の葛藤を考える。(心のメーター) ・ 誰かに親切にするときにはどんな心を大切にすればよいのか考える。	○ 注意を受けるなら、ぼくはしたくないな。 ○ それでも、困っている人がいれば私は手伝います。 ○ でも、やっぱり、怒られてまでするのは。 ○ 困っている人が目の前にいるのにほっとくのはどうかな。 ○ 自分の立場より、相手が困っていることを考えてするのが親切じゃないのかな。
5	4 自分を見つめ振り返る。	○ これから人に親切にするときに自分なりに大切にすることを考える。

評価1：友達と話し合う中で、相手の立場を考え、親切にすることについて多面的・多角的に考えている。
(ノート、話し合い、発表)

評価2：親切にすることについて、これまでの自分とこれからの自分を見つめている。

(ノート、話し合い、発表)

本教材は、困っている人の立場を考え、親切という行為を実践に移した女の子が、誤解によって親切という行為に迷いが出る話である。親切という行為が人に認められず、すっきりとしない気持ちが心に表れる主人公の思いと自分だったらという思いを重ね合わせながら、いろいろな状況や場面の中で、不利益になっても親切にすることは本当に価値あることなのかを葛藤させたうえで、相手の立場に立った親切の大切さを考えさせたい。

響き藍を目指す教師の指導（発問・指示）

- 一枚の絵を見て、親切について自分の内面を捉えさせ、本時の学習の方向性をつかむ。
- 本文を読みながら、あらすじが追えるように、挿絵を提示していく。
- 困っている「おばあちゃん」の状況を捉えさせたうえで、くずれ落ちた段ボール箱を片付け始めたわたしたちの気持ちを考えさせ、困っている人のことを考えながら行動に移した二人の親切を捉えさせる。
- 店員に誤解され、注意を受けたわたしたちの気持ちを考えながら「こんなことなら、かたづけてやらなければよかった。」という思いになった、わたしの心を考えさせ、さらに「いいえ、いいんです・・・。」と、おばあちゃんに答える時のわたしの心の中にある複雑な思いが何であるのかを役割演技を通して考えさせる。
- 複雑な思いの中にある「相手を思う気持ち」と「親切が理解されないとき」の葛藤を自分に置き換えて考えるために心のメーターを用いて自分の意見を明確にもたせ、多様な価値に触れることができるように話し合わせる。（多面的・多角的な考え）



（赤）

それでも、価値ある
行動と捉える児童

価値はわかるが、行動に移
すことに迷いがある児童

（青）



価値が薄れると捉
える児童

- 親切は価値ある行動だと分かっているが、「それでも・・・」という、人間の弱さや本音の部分に焦点化し、話し合わせる。
- 相手の置かれている状況を自分に置き換えて考えたり、「真意に沿わないことがあれば親切はしないでよいのか」などのゆさぶり発問等を行いながら、価値の追求を行っていく。
- 親切は、どのような状況でも、

- ・相手の立場に立って行動することが大切である。
- ・結果や見返りを期待しないで行動することが大切である。
（人に褒められたり、感謝されたりすることを求めないで行動する。）
- ・困っている人が目の前にいたら、迷わず行動することが大切である。

次のような点から、大切にしたいものをそれぞれが感じることができるようにする。（それぞれの納得解を見つける。）

- これから自分なりに大切にしていくことを考える。

自己の生き方についての思いや願いの深まりが見られなかった児童は、日常生活の場面などで道徳的価値のよさを実感できるような場面での言葉かけや見守りを行う。